

市民参加の方法 実施結果票

市民参加の概要	(仮称) 茅ヶ崎市歴史文化交流館建築・展示実施設計説明会		
実施年月日	平成30年3月18日	実施回数	1回
対象者	市民	参加者実数	20名
担当課	教育推進部社会教育課博物館整備担当		
I 述べられた意見、又は提出された提案等の概要			
<p>1 建築設計について</p> <p>(1) 建築等について</p> <p>1) 駒寄川護岸整備の工事の中で残土が出るのであれば、持ち出しをせずに整備地内で処理をしてほしい。</p> <p>2) (仮称) 茅ヶ崎市歴史文化交流館(以下、交流館)の基礎の部分で2mのピットを設ける計画となっているが、50~60cm程度のピットとしてその下に駒寄川護岸整備の工事である残土を盛土してほしい。</p> <p>3) 2階には何を配置するのか。</p> <p>4) 防犯対策はどのように考えているのか。</p> <p>5) 基本設計時から建物の向きや人道橋の位置が変更されたが、どのような経緯で変更されたのか。</p> <p>6) 以前に太陽光など省エネの検討を行う話があったが、具体的にはどのように設計に反映されたか。</p> <p>7) 長い目で見ると、太陽光発電や風力発電が必要だと思いがいかかか。</p> <p>8) 太陽光パネルを設置しないという計算根拠を教えてください。</p> <p>9) 館の中に入らなくても使えるような洋式トイレがほしい。</p> <p>10) 現文化資料館の展示室と交流館の展示室の面積はどのくらい大きさに差があるのか。</p> <p>(2) 外構について</p> <p>1) 自然を活かした水辺環境を駒寄川護岸に整備し、調整地の場所には地域で利用できるような広場を整備してほしい。</p> <p>2) 調整地や駒寄川護岸などの水辺環境が子どもたちの学びの場となることを希望する。</p> <p>3) 無理に広い調整地をつくる必要はないと思う。</p> <p>4) 雨水を下水管に流すという選択肢はないのか。検討したのであれば数字等を教えてください。</p> <p>5) 「自然」という言葉が出てきているが、個々人でとらえ方が違うと思う。「自然」でなく、人の手が加わっているという意味を含む「環境」などの表現に変えてほしい。今後住みやすい地域をつくっていくことがいいと思う。</p> <p>6) 人道橋は橋の南側の市有地につながっているのか。</p> <p>2 展示収蔵設計について</p> <p>(1) 博物館であることをアピールできるような屋外展示をしてほしい。</p> <p>(2) 将来収蔵していく資料の量も考えた収蔵スペースを設けてほしい。</p> <p>(3) 現在、文化資料館以外に収蔵されている資料も交流館の収蔵庫に収蔵されるのか、収蔵方針を教えてください。もし収蔵しきれないのであれば、今後交流館の近くの土地で収蔵庫を新設した方がいいと思う。</p> <p>(4) 下寺尾官衙遺跡群等で出土したものを交流館で展示してほしい。</p> <p>(5) ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業の位置づけや理念に関する展示はどのように行うのか。設計の中に位置づけてほしい。</p>			

3 交流館の活動について

(1) ミュージアムグッズを売る予定があるのか。

4 周辺計画について

(1) 周辺の景観を保全するために交流館周辺の公有地化を考えてほしい。

5 交流館整備事業について

(1) 市民から出された意見に対する検討結果はいつ公表されるのか。

(2) 市民の意見を聞く会を年に何回か持った方がよい。

6 文化資料館について

(1) 今まで活動してきた経緯や市民活動についてまとめた記念誌のようなものをつくる予定はあるか。

Ⅱ I に対する市長等の考え方

1 建築設計について

(1) 建築等について

1) 駒寄川護岸整備においては、多自然型護岸で整備を行うため、切土を行う必要があり、土砂が発生します。公共工事で発生する残土は、できるだけ有効活用を図る観点から検討・調整を行います。今回も駒寄川護岸整備工事及び(仮称)歴史文化交流館(以下、交流館)の整備の中で土砂の活用ができ得るか検討を行い、その結果、残土が発生し、適切に処分する必要があると判断しました。

2) 交流館の整備予定地は軟弱地盤であるため、地中に打つ杭の上にピットを乗せる工法としています。また、ピット内は配管を通すためや水の影響を受けないようにするために高さが必要です。

3) 空調設備機械関係のスペースと書庫収蔵庫となります。

4) 夜間や休館日などに、交流館へのいたずらや悪用等がないように防犯対策を検討しています。

5) 基本設計時では、資料を紫外線等から守ること等に重きをおき、北側に入り口を設ける配置としていましたが、館内のスムーズな動線の確保が難しい状況でした。実施設計に取り組むにあたり、博物館活動をとおして市民の方々の交流が活性化される博物館を目指すというコンセプトは継続したまま、スムーズな動線を確保するために設計を再考した次第です。この経緯については、平成29年12月に行った実施設計の中間報告会でご報告しています。

6) 7) 8) 省エネ計算はこれからの段階であり、ご意見を含め検討いたします。

9) 建物の北西側の角のところに屋外から入れるトイレを設置する予定です。

10) 現文化資料館の展示室は1階と2階を合わせて約220㎡です。交流館の基本展示室は220㎡、企画展示室は54㎡を予定しています。

(2) 外構について

1) 2) 3) 4) 調整地については、茅ヶ崎市のまちづくりにおける手続及び基準等に関する条例(以下、まちづくり条例)に沿って設置しています。今回の交流館の整備については本条例の対象とはなりませんが、民間に指導している内容に沿って設計を進めています。まちづくり条例の中では、建物の敷地内の雨水を貯留しておく施設を整備する必要があります。地下に貯水槽を設ける方法もありますが、今回は費用面や周辺の自然環境への影響に配慮をして検討した結果、周辺より低くなっている整備予定地西側の地形を活かして調整地を整備する計画としました。また今回整備するのは池でなく、雨が多く降った時に一時的に水が貯まる調整地です。また、調整地を計画している交流館西側の敷地については、イベント等ができる広場があるとよいとのことご意見もいただいていることより、可能な限り広場空間を配置しています。

5) 「自然」に対する考え方や捉え方は様々にありますが、市としては、全く手付かずの「自然」ということでなく、方針を立てて管理を行っていくことが重要と考えます。

6) 駒寄川の両岸に管理用通路を設け、歩けるスペースを整備する予定です。交流館側から人道橋を渡り、管理用通路を通して対岸へつながる動線を予定しています。

2 展示収蔵設計について

- (1) ご意見としてお受けし、検討します。
- (2) (3) 民俗と自然分野については、現在の収蔵資料の全てを交流館の収蔵庫に収蔵し、かつ将来の収蔵分の余裕を残す設計としています。考古分野に関しては、梅田収蔵庫と交流館の収蔵庫を併用していく予定ですが、収蔵庫が不足していますので、下寺尾史跡整備事業と連動するようなかたちで、継続的に収蔵スペースの確保について検討していきます。
- (4) 平成27年に国の指定を受けた下寺尾官衙遺跡群は、交流館の整備予定地から西へ約1kmのところに位置しており、交流館の中でも積極的に展示や紹介を行っていく予定です。
- (5) エントランスや市民交流スペースで、交流館の概要を説明する展示を行うことを予定しています。

3 交流館の活動について

- (1) 継続的に検討します。

4 周辺計画について

(1) 交流館周辺の景観については、景観重要建造物である旧三橋家住宅および旧和田家住宅の景観と調和するように保全していきたいと考えます。なお周辺地の公有地化については、継続的に検討します。

5 交流館整備事業について

(1) (2) 基本計画、基本設計、実施設計に取り組む中でいただいたご意見については、予算や技術的な観点から検討し、可能な限り反映させた設計としました。いただいたご意見等については順次市民参加実施結果票を作成し市ホームページで公表します。

6 文化資料館について

(1) 文化資料館の閉館にあたっては、現在までの館の活動をまとめあげていく事業を検討しています。

Ⅲ I に関する主な意見の進捗状況

意見	対応
<p>1 建築設計について (1) 建築について 6) 以前に太陽光など省エネの検討を行う話があったが、具体的にはどのように設計に反映されたか。 7) 長い目で見ると、太陽光発電や風力発電が必要だと思うがいかがか。 8) 太陽光パネルを設置しないという計算根拠を教えてください。</p>	<p>1 建築設計について (1) 建築について 6) 7) 8) 省エネの検討は、建築物省エネ法(H29.4.1施行)に基づき行いました。太陽光発電を始めとする再生可能エネルギーによる省エネ効果は、同法上の計算をする際、エネルギー削減量として差し引くこともできますが、今計画の場合、敷地が軟弱地盤であり建物を軽くする必要があるため、そのことに配慮しながら、断熱・保温性能の向上、日射の抑制、照明器具のLED化などを図ることで再生可能エネルギーを利用しなくても基準に適合する計画としています。</p>
<p>2 展示収蔵設計について (5) ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業の位置づけや理念に関する展示はどのように行うのか。設計の中に位置づけてほしい。</p>	<p>2 展示収蔵設計について (5) エントランスや市民交流スペースで交流館の概要および茅ヶ崎市における博物館の体系を示す展示を行う予定です。その中で交流館とちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業との関係性についても示していくことを考えています。</p>

その他特記事項

—

注) 必要に応じて枠を拡げて入力してください。